

# 平成 20 年度施策評価表

① 総合計画	まちづくりの目標	2 章 安全・安心で快適な住みよいまち（都市基盤の整備）			
	施策（大柱）	4 節 交通	H20 実施計画事業費合計	100,801 千円	※「H20実施計画事業費合計」は、当該計画に主要な事業と位置づけられた事務事業について、各施策、各中柱でそれぞれ合計した事業費です。
	中柱	1 交通体系の整備		0 千円	
		2 交通施設の整備		280 千円	
		3 公共輸送の充実		100,521 千円	
			千円		
施策に関係する所属	交通安全課、政策企画課、計画道路整備課				

② 施策の概要	1) 基本方針及び施策の目的	○円滑な交通を確保するため、道路網の再編成や駐車場の整備を進める。 ○市内循環バスを充実するとともに、駅施設等のバリアフリー化を進める。 ○鉄道混雑緩和のため、鉄道輸送力の増強を関係機関に要請するとともに、都市高速鉄道12号線の導入を進める。
	2) 施策の具体的な内容及び実施方法	○自動車、鉄道、路線バス、自転車などの交通手段の適切なバランスを考え、交通体系全体の整備を進める。 ○将来の交通需要の増加に対応し、安全、円滑で効率的な交通手段を確保するため主要幹線道路などの道路網の整備や、不足する自動車・自転車駐車場の整備、駅施設等のバリアフリー化を進める。 ○都市高速鉄道12号線の導入や鉄道輸送力の増強、路線バスや市内循環バス等の公共輸送を充実する。
	3) 分野別計画、指針	○所沢市街づくり基本方針 ○所沢市交通バリアフリー基本構想
	4) 関連・類似施策	○2-3道路 ○6-4交通安全 ○8-2広域行政
	5) 施策に対する市民ニーズ	『平成19年度所沢市市民意識調査』（20歳以上の男女、無作為抽出による2000人を対象とし、平成19年11月に実施。831人より回収。）における、全43施策についての市民要望の確認（複数回答可）の結果です。

③ 優先的に取り組む事業	6) 施策に係る基礎数値				
	項目名	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度
	エレベータ設置駅数	駅	8	9	9
	ノンステップバス導入台数	台	34	38	42
	市内循環バス年間利用人数	人	304,182	332,513	337,889
計画道路の進捗率	%	66.7	66.7	67.3	

事務事業名	成果指標名	指標の説明	単位	H19目標	H19実績	達成率%	将来目標
031004 ノンステップバス導入促進事業	導入率	ノンステップバス保有台数累計/バス車両総数	%	55	52.5	95.5	76.3
※「優先的に取り組む事業」とは、第4次所沢市総合計画・実施計画において、特に優先的に資源配分を行うとしたAランク事業のことです。H19年度でのAランク事業は、全体として67事業です。なお、この欄には、これらAランク事業の中で、「①総合計画一中柱」に位置づけられたものが記入されます。							

指標名	説明	単位	基準値	H18	H19	H20	H21	H22	将来目標	
④ 5年後の目標／成果指標	【5年後の目標】市内鉄道駅でのエレベータの設置駅数と設置率 誰もが快適な交通環境への取り組みを示す指標	駅%	年度	9	9	9	9	9	年度	
			17	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	22	
		%	実績値	9	9	9	実績値の拡大を目指す1		1	目標値
			88.9	100.0%	100.0%	100.0%	縮小を目指す2			9
【5年後の目標】ノンステップバスの導入台数と導入率※46台→59台に変更 誰もが快適な交通環境への取り組みを示す指標	主要幹線道路の整備への取り組みを示す指標	台%	年度	39	44	49	55	59	年度	
			17	48.8	55.0	61.3	68.8	76.3	22	
		%	実績値	37	42	実績値の拡大を目指す1		1	目標値	
			33	46.3	52.5	縮小を目指す2			61	
都市計画道路の整備率	主要幹線道路の整備への取り組みを示す指標	%	年度						年度	
			17						22	
		%	実績値	66.7	67.3	実績値の拡大を目指す1		1	目標値	
			66.7			縮小を目指す2			100.0	
		%	年度						年度	
			17						22	
		%	実績値			実績値の拡大を目指す1		1	目標値	
						縮小を目指す2				

⑤ 平成19年度中に取り組んだ改革・改善点や、新たに実施した事業等、特徴的な取り組み

平成20年度中に市内循環バス運行等の見直しを行い、21年度中に改正後の運行を実施するため、20年2月に検討委員会での検討を開始した。

⑥ 評価（課題及び目標）	1) 平成19年度評価により明らかとなった課題、及び新たに認識された課題	現在の進捗状況				
	ノンステップバスについて実際に導入される台数は、バス事業者の収益等の前年実績によって大幅に変わるため、当初の計画通りに導入されない場合がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input checked="" type="checkbox"/> 悪化傾向
	市内循環バスについては、市民からの要望を考慮し利用状況や財政負担を踏まえ運行路線及び利用者負担のあり方について検討する必要がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向
		<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向
		<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向

方向性	2) 平成20年度における目標設定	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)
	・今年度導入台数 ・ノンステップバス導入率		・導入台数5台 ・導入率58.8%	平成21年3月末
	運行経路及び利用者負担の見直し		検討委員会を開催し、市民からの要望を考慮し、利用状況や財政負担を踏まえ運行路線の見直しや利用者負担のあり方について検討する。	平成21年度中
3) 今後の方向性（事務事業の重点化・効率化、実施手段の見直し、他施策との連携、市民との協働 など）				
○公共交通機関等を利用した移動が円滑にできるよう、路線バス・駅施設のバリアフリー化を進める。また、新バリアフリー法は交通バリアフリーからユニバーサルデザインの視点が強くなり、対象者や対象施設も拡大されていることから、今後、基本構想の改定を検討する必要がある。しかしながら、法の目標年度が平成22年であることから、当面は現在の基本構想を読み替えるものとする。 ○市内循環バスについては、市民や利用者から寄せられている要望を踏まえ、運行路線及び利用者負担のあり方について本年度検討を行い、21年度中に見直し案による運行を実施する予定である。				
評価日	平成20年8月5日	記入者職氏名	市民経済部次長 仲 志津江	